

卒業生諸君、この度は長崎国際大学、そして大学院ご卒業おめでとうございます。コロナ禍の中、大いに未練の残る決断となりますが、多くの学生諸君にとって一生に一度となる卒業式を、他の多くの大学と同様、変則的と致しましたことを心からお詫び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症はこの三月で丸2年を経過しようとしておりますが、本学学長として、また利休庵診療所の院長として、この予期せぬウイルスが引き起こす困難に負けてなるものかと一生懸命戦って参りました。学生諸君や教職員を守るためにまず健康チェックシステムを作成し、その後、PCRセンター、利休庵診療所の立ち上げ、そして3回にわたる4000人を対象とした職域内接種の施行などなど、有益だと思ふことはすべて実行し、少しでも安全・安心を確保するよう、今日まで一生懸命やっ参りました。特にこの1月から激しく流行し始めた、オミクロン株の感染力は強力ですが、様々な努力が功を奏し、これまで少なくとも学内に大きなクラスターを出すこともなく、また重症化したり、後遺症をもって卒業する学生も一人もなく、そのこと自体は学長として何よりの喜びであります。

さてこの2月、私たちは精神と肉体を極限まで鍛え上げた世界のトップアスリートたちが繰り広げる冬のオリンピック競技の数々をマスコミを通して観戦し、声援を送りました。予想に反し、金メダルを確実に視されていたアスリートが苦杯を舐めたり、注目されていなかったダークホースが栄冠を獲得する姿を目の当たりにするとき、どんなに努力してもその努力が必ずしも報われる保証はない、という当たり前の事実を痛感させられました。「成功は必ずしも約束されていないが、成長は必ず約束されている。」アルベルト・ザツケローニ（元サッカー日本代表監督）の言葉です。この金言は、「結果は目標に届かなくても、努力すれば少なくとも成長は保障される。その成長は時に失敗することはあっても、必ずいつの日か輝かしい結果となって報われるはずだ。成長するための努力なくして、真の成功はないのだ」ということを教えてくれています。

長崎国際大学で育ち、本日晴れの卒業式を迎えられた学生諸君には、この4年間、或いはそれ以上の時間で習得した有形、無形のものをベースにして、4月から歩み始める新たな人生を直視し、その道の一流のスペシャリストを目指して努力を続けて欲しいと願っております。

激動する世界情勢の中で、ともすれば我が国のプレゼンスは失われつつあるといわれ始めて久しいですが、これからのわが国日本のロコモティブとなって、未来を切り開いていくのは外ならぬ諸君であることを自覚してほしいと思います。

ことのほか寒かった今年の冬が、いつの間にか終わろうとしているように、コロナ禍もやがて必ず終焉を迎えます。これから開けるであろう輝かしい未来に向かって、まずはこれまで温めてきた夢を実現するために目標を掲げ、それに向かって努力を惜しまず精進して欲しいと希っております。

令和4年3月12日 長崎国際大学 学長 安東 由喜雄